

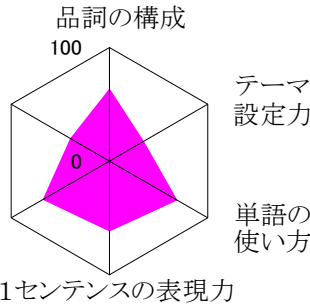
# 文章表現力&書き方測定結果

〇〇 様

タイトル// マネジメント活用——成果を創る

## 文章表現力測定総合点 56 点

- 品詞の構成 64 点
- テーマ設定力 35 点
- 単語の使い方 69 点
- 1センテンスの表現力 62 点
- 論調の難易度 68 点
- 論旨展開の性急さ 40 点



基本測定項目は16種類あります。理想的な適正值は5.0で、この値を中心にして許容範囲の測定値は4.0～5.5になります。

測定値が5.5より大きくなると、こだわりが強かったり、しつこい表現の文章となり、4.0より小さくなると意味が曖昧になっている文章となります。

許容範囲より大きく外れていた項目は、下記の3項目でした。改善策を参照してください。  
この改善策では、日頃の会話の習慣を改善する事でも、文章表現が身に付きやすくなるようにしています。

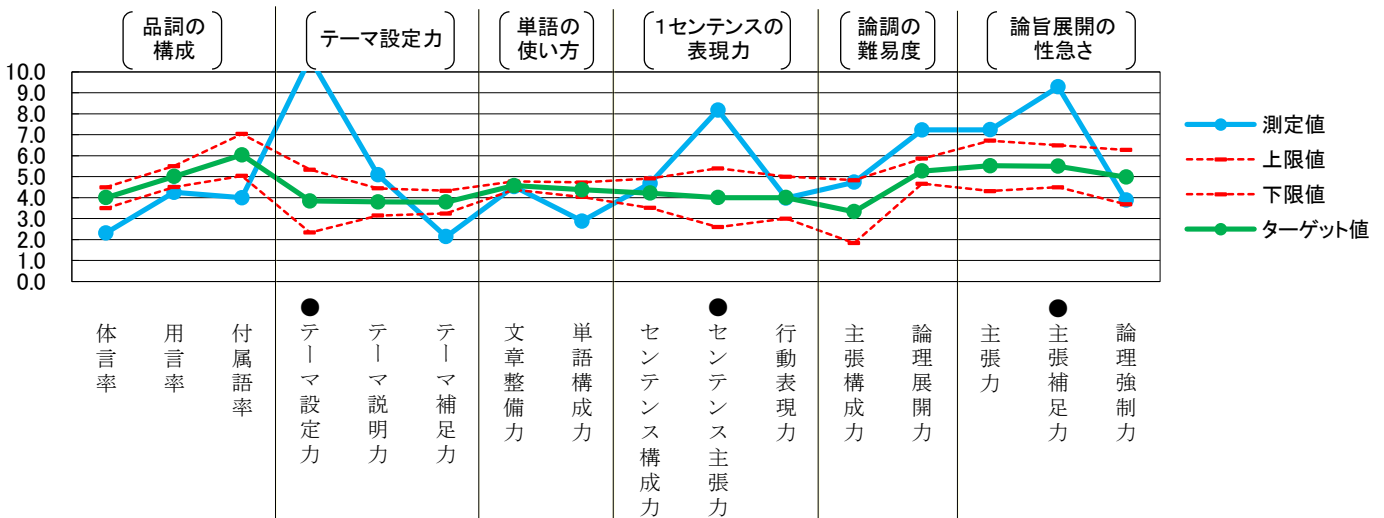
- テーマ設定力**

望ましいキーワード数を見て、あなたが表した単語数が多ければ、絞り込みましょう。キーワード数が多いと内容が難しくなり、読者は理解しにくくなります。キーワードとして挙がっている単語群の中で大切な語を選択し、もう一度、書いた文章を読み直してください。よく似た表現を繰り返しているところは削除してください。または類似文の一つにまとめましょう。キーワード群を絞り込めば、読者は理解しやすくなります。
- 主張補足力**

抽出されたあなたのキーワード群の1番最初の単語が、文章を展開する基準になっています。その単語を有効にするのが、2番目、3番目です。2番目、3番目の単語が際立っているため、基準になっている語を抑えています。もっとも簡単な対処の方法は、2番目、3番目の単語を他の語に置き換えられないかを検討してください。すべてではなく、置き換えられるところのみを変えてみます。読みやすく、意味が通じやすくなります。
- センテンス主張力**

各センテンスが短くなっています。読みやすいですが、論証の展開としては、文のつながりが切れて、理解を難しくしています。修飾語または修飾節の使い方を工夫してください。文章を見直して、短くなっている文をつなぐ試みをしてください。論文、報告文では適度な長さ(1文が35文字から40文字)を中心に構成するようにしましょう。短い文がダメなのではなく、主張の中心になる文は一定の長さが必要です。

縦軸：測定値  
横軸：基本測定項目(16項目)  
上限&下限値：同じ人の文章でもブレ幅があり、ブレ幅の理想限度を表したのが上限値と下限値です  
ターゲット値：読みやすい、分かりやすい、表現に無理のない文章としての目標測定値です



基本測定項目	測定値	測定内容
1 体言率	2.3	文章で使われている全体の単語に対しての名詞、副詞の割合を示しています。
2 用言率	4.3	文章で使われている全体の単語に対しての動詞、形容詞の割合を示しています。
3 付属語率	4.0	文章で使われている全体の単語に対しての助詞、助動詞の割合を示しています。
4 テーマ設定力	⇒ 10.6	言いたいことを単語に置き換えたときの単語群を表しています。
5 テーマ説明力	5.1	言いたいことの説明、論証を補強する単語群を示しています。
6 テーマ補足力	2.1	言いたいことの根拠、原因、理由などの具体的な例を示しています。
7 文章整備力	4.5	文章表現の基本で全体の文字量に対しての意味のある単語の割合を示しています。
8 単語構成力	2.9	使われている意味のある単語の重複率を示しています。
9 センテンス構成力	4.7	センテンス全体の文字数の平均を表し、1センテンスで言いたいことの強さを示しています。
10 センテンス主張力	⇒ 8.2	最も言いたいことを表現した1センテンス(一文)の主張の強さを示しています。
11 行動表現力	4.0	1センテンス(一文)で表現されている、行動を表している単語の出現率を示しています。
12 主張構成力	4.7	言いたいことを構成している単語量からの主張の複雑さを示しています。
13 論理展開力	7.2	言いたいことを伝達するときの分り易さ、丁寧さを示しています。
14 主張力	7.2	文章の中で、最も中心になっている単語の強さを示しています。
15 主張補足力	⇒ 9.3	言いたいことの特徴を表している単語の集まりの強さを示しています。
16 論理強制力	3.9	言いたいことを相手に説得しようとする姿勢の強さ、丁寧さを示しています。

## 1 キーワード群

あなたが文章の中で特に言いたい事柄を複数の単語で示したものをキーワード群としています。相手に伝わるような文章にするには、使われた単語の総数の約4%の単語がキーワードとして書かれているのが望ましい文章となります。

成果 顧客 意味 機能 行動 精度 物 現れる

▼文章全体の文字の数は	1014	文字
▼あなたが使った単語の数は	143	単語
▼あなたのキーワード群の数は	8	単語
▼望ましいキーワード群の数は	5	単語

※形容詞と動詞は終止形で、10単語まで掲載されます。

**望ましいキーワード群の数を目指すようにしましょう！**

## 2 長いセンテンス

文章には短い文も、長い文もあります。1センテンス(一文)が長すぎると意味が読み取り難くなります。逆に短すぎても、意味が単純になり、気持ちが表れ難くなります。読み易く、相手に伝わり易い1センテンス(一文)の文字数は40文字が適正となります。

▼センテンスの数は	36	センテンス
▼最も長く書かれたセンテンスの文字数は	62	文字
▼60文字以上で書かれたセンテンス数は	1	センテンス

**1センテンスは、40文字以内で書くようにしましょう！掲載されていないならばOKです！**

- 振り返る行動か、繰り返される行動か、次へと進む行動であるか、それともすべてを含む行動であるかによって機能と意味が設定させる。
  - －文字数は62文字でした。－

## 3 書き方テクニック

下記表の項目は文章を読みやすくするための大切な要素になっています。それぞれの項目が適正範囲になっているほど読みやすくなります。あなたの文章をさらに良くするために下記表を参考にして下さい。

測定項目	測定数	適正範囲	判定
文字数	1014		
1 使用単語数	143	292～322	▼
2 センテンス数	36	26～31	▲
3 名詞数	150	190～213	▼
4 動詞数	122	79～95	▲
5 接続詞数	3	0～4	○
6 指示語数	2	0～3	○
7 副詞数	13	0～8	▲
8 癖言葉数	0	0～12	○
9 長文数	1	0～2	○
10 キーワード数	8	3～6	▲
11 語尾統一率	100%	90%以上	○
12 否定語使用傾向	6%		
13 漢字使用傾向	36%		

書かれた文字数に対して、測定項目の1～13までを測定しています。書かれた文字数に対して、適正範囲が変更されます。

《判定》 ▲:測定数が適性範囲より多い ▼:測定数が適性範囲より少ない

1使用単語数、3名詞数、4動詞数、5接続詞数、6指示語数、7副詞数、8癖言葉数は、使われた回数によって適正範囲が設定されます。

否定語 打消助動詞”ない”と形容詞”(ない・無い)”, 非、不の使用傾向: つく単語(非常識・不可能など)を測定しています。

癖言葉:

※繰り返し書かれていて、頻度の多い単語が掲載されています。

**癖言葉は、できるだけ無くすように、または、違う言葉で書き換えるようにしましょう！**

## 4 文体と語尾のバランス

文章を書く時、人には表現の癖があります。論文がいつのまにか小説風になる事もあります。目的に応じた文章を書く為、自分の文体の癖を知っておく事が大切です。文末も統一されている方が読み易く、文意もつかみ易くなります。

〈文体〉

		0	2	4	6	8	10
論文風	2.5	[Progress bar]					
エッセイ風	1.9	[Progress bar]					
小説風	5.6	[Progress bar]					

〈語調〉

		0	20	40	60	80	100
ですます調	0	[Progress bar]					
である調	100	[Progress bar]					
体言止め	0	[Progress bar]					

**この測定では、文体は論文風が最も高くなるのが望ましい形です。語調は統一されているか確認してみましょう！**

## 5 キーセンテンス

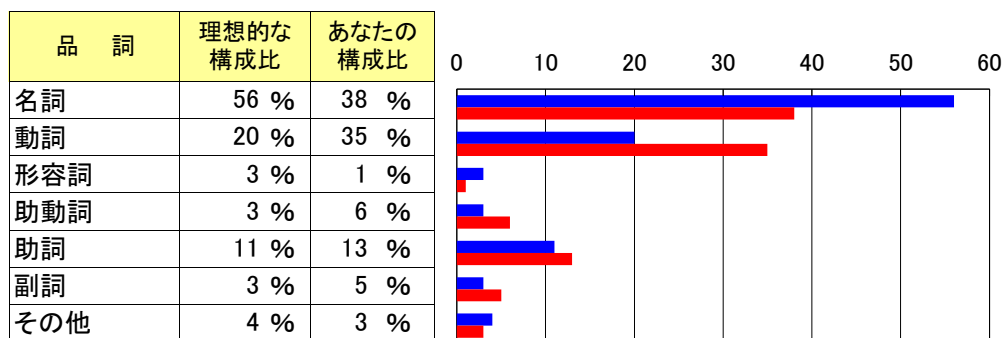
読んだ後に印象に残りやすい文が下記に示されています。あなたが書いた文章で、言いたかった、伝えたかった内容が下記に示されているか確認して下さい。

※文字数が多い場合は掲載されない箇所があります。

- 形と機能と意味が重なって、成果が何であるかが見えるようになる。
- 成果が何であるかが分かっているとき、すでに顧客は現れているはずである。
- 少なくとも顧客が見えていなければ、成果が求められるはずもない。
- 機能と意味を顧客から探す。
- 振り返る行動か、繰り返される行動か、次へと進む行動であるか、それともすべてを含む行動であるかによって機能と意味が設定させる。

## 6 品詞の構成

幼い子供も、大人も、天才も、賢い人も、まったくそうでない人も、皆が一緒に、同じテーブルで話し合った事を測定してみると左下の理想的な構成比になってしまいます。この構成比率こそ、意識が通じ合う言語コミュニケーションなのです。



■理想的な構成比  
■あなたの構成比

**理想的な構成比とあなたの構成比を比較して下さい！  
違い過ぎている品詞がある場合は、理想的な構成比になるように意識して書きましょう！**

※その他は接続詞、連体詞、感動詞です。

◆品詞の構成は、あなたが書いた文章の”全ての単語(助詞・助動詞を含む)を品詞単位に置き換えて使われた割合を測定”しています。

## 文章書き方測定の合計点 67 点

以下に挙げられている項目は、論文、報告文の書き方10原則です。文章表現の注意点で、合計点は80以上が目標です。6点以下の項目は特に注意してください。

- |                           |      |                          |      |
|---------------------------|------|--------------------------|------|
| 一文での名詞数を過不足のないように書く       | 0 点  | できるだけ漢字で書く               | 7 点  |
| 動詞、形容詞は、名詞に対してバランスよく書く    | 3 点  | 「ですます・である調」は統一して表現する     | 10 点 |
| 副詞などのあいまいな言葉は、できるだけ減らす    | 4 点  | 「こと」「もの」などは、できるだけ使わないで書く | 10 点 |
| 「そして、しかし」などの接続詞は、できるだけ減らす | 10 点 | 一文は、できるだけ40文字以内で書く       | 10 点 |
| 「こそあど」などの指示語は適切に使う        | 10 点 | テーマの中心になる単語を決めてから書く      | 3 点  |

※得点は10点満点です

## あなたの書いた文章で測定されている内容は

- あなたが文章の中で、言いたい事柄、主張したい事柄(キーワード)が相手に伝わるように書かれているかどうか。
- 「～の事」の「事」、「～の為」の「為」などの言葉が、意味もなく何となく使われ、書く時の癖になっていないかどうか。
- 1センテンス(書き始めから句点「。」までの一文)が長すぎて、意味が読み取り難い文になっていないかどうか。
- 基本となる16項目の測定値が適正值(理想値)よりもかけ離れ、バランスの取れていない文章の構成になっていないかどうか。
- やたらと漢字が多い、もしくは、ひらがなが多い文章になっていないかどうか。接続詞、指示語、副詞などの単語が多く使われている為に、文章全体で意味が読み取り難い構成になっていないかどうか。
- 文法の基本となる名詞や副詞、動詞、形容詞などの構成のバランスが取れているかどうか。特定の品詞に偏っていないかどうか。
- 論文を書いているのに、例えば、どこからか小説風の文体の書き方に変わっていないかどうか。「ですます調」で書き始められた文末が、途中で「である調」、「体言止め」などに変化していないかどうか。

の7つが大きなポイントです

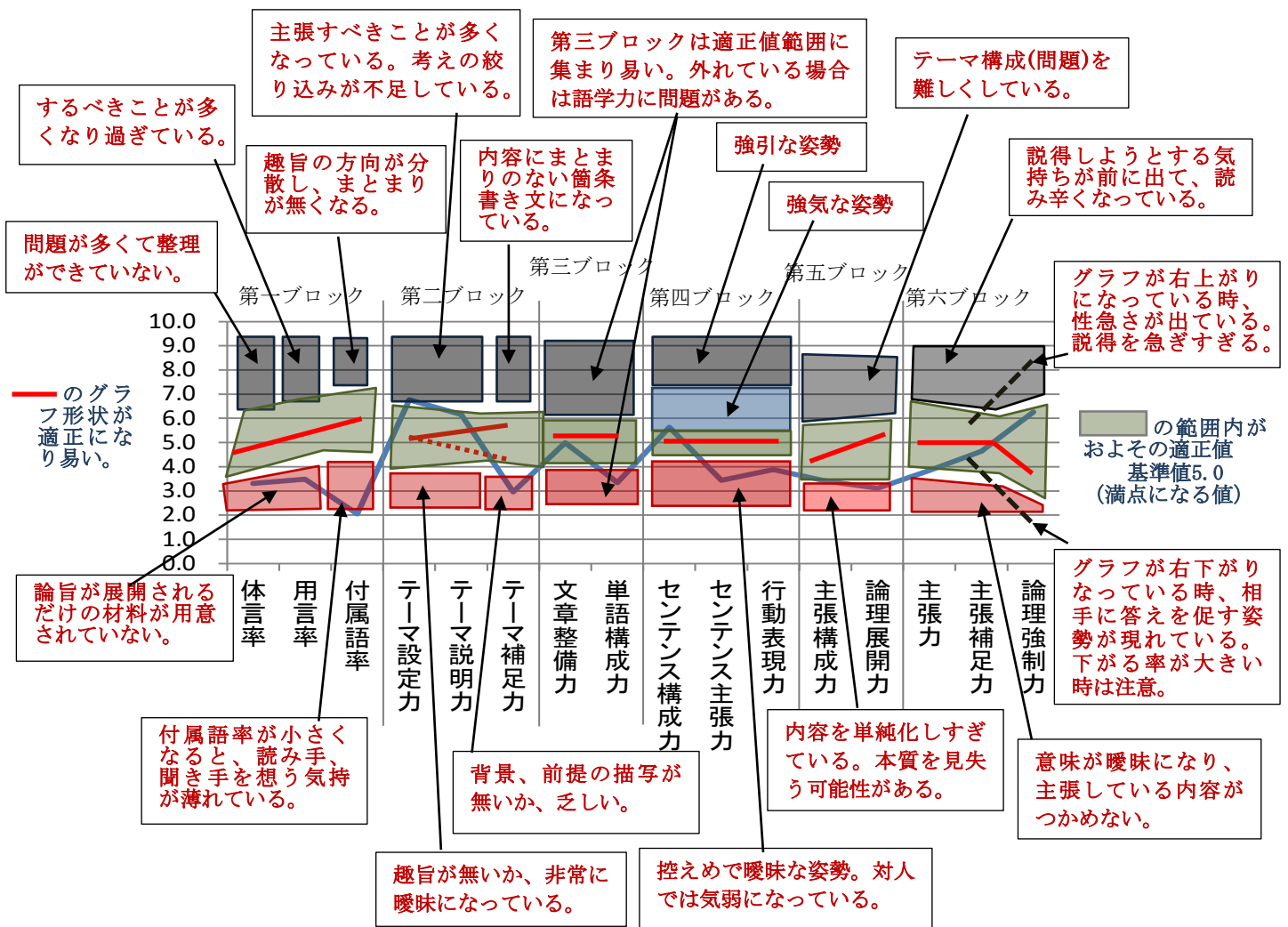
## 文章の心電図(測定値グラフ)

文章分析は言葉を素材にした分析です。文章の作者の表現、思考形態を一つの折れ線グラフで表しています。グラフは16の測定値で表されています。グラフ形状を並べて見ると人材の特徴の違いが良く分かるはずです。

### ■測定値の意味とブロック別グラフ形状

表現された文章を、16の項目測定値で表し、作者の表現&思考状態を視覚化しています。グラフ形状が人材のテーマに対しての姿勢、特徴を表しています。一人の人材が、いくつもの文章を書いたとしても、類似したグラフ形状になると分かっています。グラフの測定値と形状の意味は、膨大な文章データの分析統計から、人材の特徴とグラフ形状の関係が求められました。

データの取り方、分析値の計算の仕方によって、16の分析値項目が第一～第六の六つのブロックに分類されています。測定値4.0～6.0の場合は、表現、論旨等が適正にまとめられています。6.0より大きくなると、こだわりが強くなり、他の意見を受け入れにくくなる傾向があります。逆に、4.0より小さくなると、曖昧さが出て、他の意見に影響されやすくなる傾向があります。



### ■グラフのブロック単位の形状には次の種類がある



六つの各ブロックは3つまたは2つの分析値で構成されています。一つのブロックは、同種のデータを取り、グラフの形で、表現&思考タイプがあるのが分かりました。第一、第二、第四、第六ブロックは、分析項目が3種類

あり、上図のようにグラフ形状が9種類あります。第三、第五ブロックは2つの分析項目があり、グラフ形状は右上がり型、水平型、右下がり型の3種類があります。グラフ形状の例を挙げておきましょう。第一ブロックは体言率と用言率、付属語率で構成されています。分析値が右上がりになる人は対人性の高い人になり、山型になると、指示をする傾向が強くなっています。第二ブロックが、右下がりであれば、自身だけが納得して、相手も納得しているつもりになっています。右上がり、趣旨をつかんでおらず、分かったつもりになっています。第5ブロックの左の分析値が4以下で右上がりになっている場合は、問題を簡単にしてしまう傾向があります。分析値によって状態のレベルは変わりますが、人材を認識するための一つの指針になっています。